

北斗病院にも陰圧テント

宮坂建設「地域医療支えるため」



宮坂建設工業（帯広市、宮坂寿文社長）が管内の医療機関に貸し出している医療用陰圧テントが30日、市内の北斗病院 井出渉院長に設置された。新型コロナウイルスに感染した疑いの患者を安全に診断するために使用するもので、貸し出しは帯広協会病院に続き2件目。北斗病院は発熱患者が訪れた際の処置スペースとして活用することなどを想定している。

阿部専務（中央右）から陰圧テントの説明を受ける井出院長（同左）

作業に立ち会い、テントの使用方法などの説明を受けた井出院長は「新型コロナウイルスの闘いが長期化し、すべての物資が不足傾向にある。秋から冬にかけて感染者の増加が見込まれる中、（テントの貸与は）本当にありがたい」と述べた。

陰圧テントは、テント内の気圧を下げることで、ウイルスを外部に漏らさずに処置を行うことができる。テントの貸与とともに、感染対策などに使用するビニール手袋2万5000枚も寄贈された。

テントの設置を終えた阿部専務は「8月末までにさらに3機の貸し出しを予定している。地域医療を支えるために、できることを着実にやっていきたい」と語った。（奥野秀康）

2020. 8. 3 北海道通信

新型コロナ
【帯広発】宮坂建設工業（帯広、宮坂寿文社長）は7月30日、帯広市内にある北斗病院に陰圧テント1セットを無償で貸し出した。7月15日に貸与した帯広協会病院に続いて2回目。新型コロナウイルスの感染が疑われる患者を診察する際の待機場所として使用するなど、院内感染の防止に大きな効果を発揮することが期待されている。

この日、同社から役員ら10人が北斗病院に集まり、正面玄関前の一角にテントを設置。また、テントの貸し出しと合わせて、使用の際のポリエチレンクイ捨てのゴミ袋などを提供した。

阿部専務執行役員（右から2人目）からテントの説明を受ける北斗病院職員

医療支援2カ所目

宮坂建設 陰圧テント無償貸与

ト3セットを購入。テント101万2千500枚も寄与したい。今後の感染拡大を見えておらず、今後も地域医療への支援を続けていきたい」と語った。

同社の阿部浩之専務執行役員は「収束の兆しはまだまだ見えておらず、8月中旬に届く予定の医療機関もテントの借り受けを希望していることから、引き続き支援を行っていく。

医療用陰圧テント 2例目の貸し出し

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業（本社・帯広）は7月30日、地域貢献として医療用陰圧テントを帯広市内の北斗病院に貸し出した。同社の医療機関へのテント貸し出しは2例目。

同日、屋内駐車場の正面玄関前に設置した。21日に要請を受けた。

同病院の井出渉院長は「当院は感染症指定医療機関ではないが、新型コロナウイルスの疑似症患者が来る。今後に備え、外来の発熱患者に待機してもらおう場所として考えている。非常にありがたい」と喜ぶ。

阿部浩之専務は「8月末までにそろそろ張り全てに貸し出し要請が来ている。地域医療を支えるためにできることをしたい」と話す。

この日は使い捨てのポリエチレン製手袋も21万5000枚贈った。同病院は1日に4000枚を使用しているという。品薄となっていると聞き、贈を決めた。

テントは前室を含め奥行き7.5m、幅4.5m、高さ2.5m。新型コロナウイルス感染防止に有効な陰圧設備を備えている。



コロナ対策 陰圧テント貸与

宮坂建設工業が北斗病院に貸与した陰圧テント

宮坂建設工業（帯広）は、新型コロナウイルス対策として購入した医療用陰圧テント1基を帯広市の北斗病院に無償で貸し出した。同社の阿部浩之専務執行役員らが7月30日、同病院を訪れ、正面玄関前の屋内駐車スペースに設置した。同病院は発熱の症状がある受診者が処置を受けるスペースなどで活用を想定している。

井出渉院長は「管内で再び感染拡大してもおかしくない状況下で、非常にありがたい」と感謝した。この日は同病院に使い捨てポリ手袋21万5千枚も寄付した。阿部専務執行役員は「今後も3基の貸与を予定している。地域医療を支える力になれば」と述べた。

陰圧テントは内部の気圧を下げることで、新型コロナウイルスが外に漏れるのを防ぐ。同社による貸与は帯広協会病院に続いて2件目。（大庭イサク）

宮坂建設工業 北斗病院に

宮坂建設工業（帯広）は、新型コロナウイルス対策として購入した医療用陰圧テント1基を帯広市の北斗病院に無償で貸し出した。

